

## お知らせ

NEWS

- 診療科の取組案内…小児科／産科婦人科
- Topics1…山形大学医学部の生誕、現在・未来を皆で語り知る会を開催
- Topics2…山形大学医学部発の未来医療展開会議in鶴岡を開催
- Information…第7回 学術大会開催のお知らせ

山形大学医学部附属病院の最新の医療を紹介する広報誌VOL.5が出来上がりました。これを機会に当院の医療を知っていただき、地域のリソースとして有効に活用していただければと思います。

## 診療科の取組案内 1 小児科

現代の進んだ医療でも治療が確立していない難しい病気に取り組む大学病院の小児科では、それぞれの各臓器分野で最新標準治療による診療とより良い予後の為の臨床研究・治療を行っています。



関連病院ともオンラインでつなげて行っているカンファレンスの様子

## 〈小児がん〉

子どものがんの治療成績は、良くなってきたとはいえまだ病気の死因第1位です。大人のがんと違い、白血病、脳腫瘍、リンパ腫などが、その主なものを占めますが、一つ一つは頻度が少なく、様々な病型それぞれにきめ細かい適切な対応が重要です。当科では、日本小児がん研究グループの臨床研究を中心に、国際共同試験を含め、現在実に23種以上の前向き臨床試験に参加し、最新の標準治療の実践と新規の治療法の確立の為に努力しています。

## 〈神経領域〉

様々な神経や筋肉の病気に対応すると共に、小児神経疾患の遺伝学的病態解明、特にてんかん性脳症や脳形成異常症の研究を行なっています。また、臨床実践研究として近年重要性が増している重症児(医療的ケアを必要とする児)の在宅療養を支えるためのケアスタッフ養成など、県内の関係機関と連携してシステム確立に向けて活動しています。

## 〈内分泌・代謝領域〉

近年、徐々に効果のある代謝酵素補充治療が確立してきている様々な先天性代謝疾患と、成長障害や糖尿病といったホルモン異常に対しても質の高い標準治療を提供しています。本邦やアジアで多い、糖・アミノ酸・脂質の肝臓での代謝がうまくいかないシトリン欠損症に対しては、中鎖脂肪酸を補充することで症状の改善をみており、独自の臨床試験として実施中です。

## 〈新生児領域〉

早く生まれてしまった早産児はもちろん、先天性心疾患、髄膜瘤・水頭症といった脳外科疾患、胸腹部の小児外科疾患、染色体異常等、他科と共同して診療する、いわゆる集学的取り組みが必要な赤ちゃんを中心に県内各地からご紹介を受け診療を行っています。また、睡眠時に低換気や無呼吸をきたしてしまう先天性中枢性低換気症候群の遺伝子診断について、自施設は勿論、国内多くの施設から依頼を受け、診断確定に寄与すると共に病態解明の研究を行っています。

## 〈腎臓領域〉

初期治療反応性はいいものの、再発で困る事が多いネフローゼ症候群を中心に各種腎炎から腎不全等、様々な泌尿器疾患の診療を行っています。難治性ネフローゼ症候群の代表格である巣状分節性糸球体硬化症については、その成因としての遺伝子変異の検討と病態解明に取り組んでいます。

## 〈循環器疾患〉

様々な小児心臓疾患の診療を行う中、先天性の心臓疾患においては胎児期から診断し、その早期の治療管理を行っています。複雑な心奇形でも長期の生存が得られるようになった現在、患者さんが精神的また社会的により豊かな生活を送れるよう胎児期から若年成人まで縦断的に対応しています。近年進歩の著しいカテーテルによる心臓治療にも新生児から成人まで対応しています。

## 診療科の取組案内 2 産科婦人科

## 〈婦人科悪性腫瘍〉

子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌が主ですが、そのほかの希少癌にも対応しています。週1回婦人科悪性腫瘍チームでのカンファレンスで一人一人の治療方針を検討し、他科と合同で治療が必要な際には院内のCancer treatment board (CTB) でベストな治療法を検討し提供できるようにしています。また術前後の病理組織を病理診断科とカンファレンスを行い、精度の高い診断ができるよう心掛けています。また、若年発症の婦人科癌症例も多く、症例によっては妊孕性温存を考慮した治療にも対応しています。

## 〈周産期〉

精神疾患、甲状腺疾患、膠原病など、合併症を抱えたハイリスク妊婦が安全に分娩を迎えられるよう、関連科の専門医と連携をとって診療にあたっています。当院では産婦人科のみでなく多職種による集中治療が可能のため、産科危機的出血の母体搬送も受け入れています。また母体疾患だけでなく、胎児診断とそれに基づいた周産期管理を行っています。先天性心疾患など、児の出生後の治療にスムーズにつながれるように小児科、第二外科等と連携をとって診療しています。

☞裏面へつづく

## 〈生殖医療〉

不妊検査・不育症検査・配偶者間人工授精・体外受精・顕微授精・胚移植・胚凍結融解・精子凍結融解を行っています。2016年には、配偶者間人工授精は303周期、体外受精及び顕微授精は235周期、凍結融解胚移植は104周期の実績があります。全国の動向と同様で施行数は増加傾向で、特に凍結融解胚移植は年々増加しています。若年男性の治療等で生殖機能喪失の可能性がある場合の精子凍結も行ってきますので、積極的にご紹介ください。

## 〈鏡視下手術〉

当院では鏡視下手術（腹腔鏡下・子宮鏡下・卵管鏡下）を積極的に行っており、近年は手術件数が増加しています。開腹手術より体への負担が少ないため、合併症を認めなければ術後1～5日程度での退院となります。腹腔鏡下手術は子宮筋腫（子宮全摘、筋腫核出）・子宮付属器（卵巣・卵管）・異所性妊娠・不妊症などに、子宮鏡下手術は主に子宮内腫瘍に、卵管鏡下手術は卵管閉塞に施行しています。また、妊娠・生産率向上を期待し、不妊症患者への鏡視下手術の治療・検査も行っています。

## 〈女性医学〉

更年期以降に増加する諸疾患や、性分化疾患、思春期の月経異常などを主に治療しています。更年期症候群や早発卵巣機能不全に対するホルモン補充療法はもちろんのこと、小児期～性成熟期にかけての手術や化学療法による若年での卵巣機能不全は、骨粗鬆症や心血管系疾患のリスクにもなるため、ホルモン補充療法を積極的に行っています。骨盤臓器脱・尿失禁に対しては、症状・年齢・合併症・患者様の希望などを考慮しながら保存的または手術治療を行っています。



腹腔鏡下子宮全摘術

Topics 1

# 山形大学医学部の生誕、現在・未来を皆で語り知る会を開催

平成29年11月24日（金）、山形大学医学部大講義室において、「山形大学医学部の生誕、現在・未来を皆で語り知る会」を開催しました。この会は、県内唯一の医師育成機関として、学生が卒業後により多く山形県内に定着してもらうために、40年以上前に県民の熱い思いが叶ってようやく設置された医学部であることや最先端医療を推進する山形大学医学部の未来像をあらためて学生に理解してもらうために開催したもので、医学部医学科4年生、研修医、医師、看護師など約300名が参加しました。

会では、最初に、山形大学医学部医学科卒業

生の山川光徳 病理診断学講座教授（3期生）が「私のキャリア」と題して、山下英俊医学部長が「山形大学医学部の生誕、現在・未来」と題して山形大学医学部の歴史、これまでの教育研究の成果及び今後の展望について、それぞれ講演を行いました。この日は、女優の橋本マナミさんも、医学部健康大使として初めて参加し、山形大学医学部の取組に対する感想などを話しました。

なお、終了後には会場を移動して、学生が将来医師になるにあたってのキャリアパスや不安・悩みなどについて先輩医師に相談できるように懇談会も開催しました。



医学部健康大使の橋本マナミさんを囲んでの記念撮影

Topics 2

## 山形大学医学部発の未来医療展開会議 in 鶴岡を開催

平成29年11月23日（木・祝）、荘内銀行本店ホール（鶴岡市）において、山形大学医学部及び荘内銀行の共催により「山形大学医学部発の未来医療展開会議in鶴岡」を開催しました。

このイベントは、創立以来、地域に開かれた医療を志すとともに、時代の先端を行く最高水準の医療の提供に努めている山形大学医学部の取組を庄内地区の一般市民に紹介するために開催されたものです。

未来医療展開会議は、二部構成で行われ、第一部「最先端医療の最前線」では、ロボット支援手術、最先端医療機器を用いた脳神経外科手術やハイブリッド手術室を利用した低侵襲の循環器医療などについて9名の教授によるリレー形式で講演が行われました。次いで、第二部「これからの最先端医療」では、平成32年3月に診療開始予定の重粒子線がん治療、唾液でがんを早期発見する研究、山形県コホート研究（Yamagata Study）の取組などについて7名の教授による講演が行われました。

山形大学医学部では、このように16人もの最先端医療を行っている教授陣が一同に会して講演をするのは初めてのことであり、今後も地域に開かれた医学部として、同種の取組を行うことを検討しています。

当日は、悪天候にもかかわらず300名を超す一般市民が参加し、地元で受けられる最先端医療に関する関心の高さがうかがえました。



低侵襲で進化した循環器医療について講演する外科学第二講座の貞弘教授

Information

日本医療コンフリクト・マネジメント学会

## 第7回 学術大会開催のお知らせ

このたび日本医療コンフリクト・マネジメント学会第7回学術大会が、山形大学医学部を大会長校として開催されますので、是非、ご参加願います。

### ●開催日時・場所：

1日目／平成30年2月3日（土）9:00～16:30

山形テルサ 3F アプローチ

2日目／平成30年2月4日（日）9:00～12:15

山形医学交流館ホール（山形大学医学部内）

### ●申込方法：学会員の方は学会ホームページを参照願います。

<http://jshcm.kenkyukai.jp/event/>

### ●その他：山形県医療ADR学術研究会会員の医療機関に所属する方は、学会会員と同額（5,500円）で参加できますので、お申込みは、下記問い合わせ先をお願いします。

### ●問合せ先：山形大学医学部総務課庶務担当

TEL:023-628-5006 FAX:023-628-5019

E-mail: adr-yamagata@jm.kj.yamagata-u.ac.jp